

Title	Internet Infrastructure in Japan
Sub Title	
Author	伊藤朋子(Itou, Tomoko) 太田, 康信
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2000
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2000年度経営学 第1571号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002000-1571

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	太田 研究室	学籍番号	89928100	氏名	伊藤 朋子
(論文題名)					
Internet Infrastructure in Japan					
(内容の要旨)					
<p>インターネットは国の繁栄を左右する重要なインフラであり、各国が競ってその整備に力を入れてきている。 この分野、インターネットの革命性は非常に大きい現代の経済社会に与える影響力も大変大きい。</p> <p>そこで私は日本の経済不振はこのインフラ整備の方向性を誤っているからではないか、という仮説を立てた。もともとわが国の Private Equity 投資の振興にも興味があったが、それも未だうまく根付いていないのは、社会におけるインターネットインフラの構築がうまく機能していないからだと考えられる。</p> <p>研究はテーマが多岐にわたり焦点がぼやけるのを防ぐため、わが国のインターネットインフラの整備に主眼が置かれている。しかし、Private Equity 投資については Sub Study というかたちでとりあげることにした。</p> <p>観察、分析は一年にわたり続けられたが、当初はレイヤーの議論を欠いたままインターネットビジネスの議論ばかりが先走っていたことが目立った。</p> <p>そもそもこの状況に対する危機感からはじめられた研究であったともいえる。</p> <p>一年経った今、この分野は時間の流れがとても速く、短い間にめまぐるしくさまざまな動きがあった。しかし結論として、依然として本質的な状況はほとんど変わっていないのではないかと思う。その本質的な問題として私がこの論文で指摘したいのは、今の日本は島国という堀の中で、国際的な流れに逆行する方向性を強く打ち出す一部の人々に導かれ、数多くの人々が其の誤った方向性に気づかず、真のインターネット先進国としてのメリットを享受できることなく忍従を強いられている、ということなのである。繰り返しになるが、この問題こそが日本経済の発展を今後阻害していこう、という警鐘を鳴らしたい。</p>					